

## 待降節第一主日

ルカ 21・25-28,34-36

2015.11.29

ジョン神父（クラレチアン宣教会）

待降節が始まり、一年が早く過ぎ去ろうとしています。

待降節は教会の新年（ニューイヤー）だと思います。待降節は、ラテン語で「来る」という意味です。イエス様はわたしたちのために三回来られました。

一回目は、イエス様は人間として来られました。

二回目は、イエス様が来る時、人々に裁きを行うことです。

三回目は、毎日、イエス様がわたしたちの生命の中に入るということです。毎日我々がミサに参加するとき、イエス様が近づいて、イエス様と共にわたしたちの生活を築くことができます。

確かに、一回目に来られた時は、神様はイエス様によって御言葉を伝えられました。そしてイエス様はわたしたちのために命を捧げられ、死に、復活されて、我々人間に希望を与えました。

二回目は、人間が死ぬ時にまで自分の努力をしたことを神様をご覧になり、わたしたちを裁かれます。

でも一番大切な事はイエス様が来られること。イエス様の御言葉に導かれて主の道を歩むことができるように励まされます。

わたしたちの人生は旅のようなものです。この旅の途中でいろんな障害と試練に直面します。この時に二つ注意しなければいけないと思います。

一つ目、自分の存在を自覚することです。自分が存在するということがどのようにしてわたしは生かされているかということです。カトリック信者として 神様はわたしたちの生きる方法を教えてくれました。それは、人間の生きる目標は神様の道を歩くことです。わたしたちは神様を信じて、自分の価値観がもっとはっきりとわかる。キリストを知らない人との価値観とは違います。わたしたちは神様の道がわかったら自分の生きる目標にしそれを生きたいと思います。それは、積極的に人々と交わり愛を示したり、他の人のために仕事をよくしたいと思うことです。

二つ目、この人生の旅の途中で何をするの？ 人生で生きることは他の人のために、毎日、神様がわたしたちにご自分の愛とまた共にいてくださるということをより深くわたしたちが感じ、それを他の人にも向けるようにわたしたちを招いておられます。

以上の二つのことをよく心に留めて、イエス様が来る時のためにわたしたちは自分でいろんなことを準備しようと思います。

11月に、わたしは10人の信者さんと共にローマとパリの巡礼に行つて来ました。この時にいろんな経験をしました。ヨーロッパに行くのは初めてでした。巡礼の間に多くの教会に行つて、お御堂の中に入った時にとっても疲れていましたが、その疲れを乗り越して本当に感動をしました。11月13日にフランスのパリから日本に戻つてきて、次の日テロ事件が起きました。巡礼から無事に帰つてくることが出来て神様に感謝をしました。神様は恵みをたくさん注ぎ続けておられます。

今日の福音の中で三つの教えがあります。

一つ目、準備をすることです。自分の心と生活態度をよくするように準備をして心がけをすれば、神様がいつ来ても恐れる事はないです。

二つ目、恐れない、わたしたちの生活は神様と共に歩みます。イエス様が常に共に存在することを気にとめておいてください。

三つ目、わたしたち自身が周りの人との関係を見直してイエス様を迎えるように、自分の心を主に対して開きましょう